

[1] 概況

■スクリーン数の推移(1993～2016)

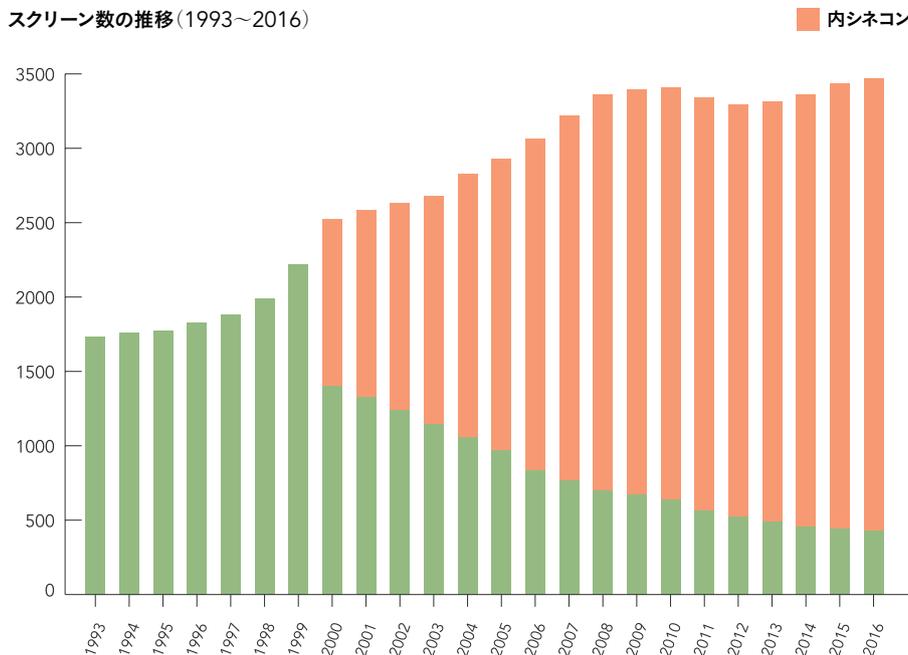
日本に初めてのシネマコンプレックス(シネコン)がつけられた1993年以降のスクリーン数の推移をみてみる。このグラフは、日本映画製作者連盟(映連)による「日本映画産業統計過去データ一覧表」を元に作成している。このデータで、シネコンとそれ以外の映画館のスクリーン数を区別して明示されたのが2000年以降であるため、グラフでは1999年までのスクリーンがすべて緑色で表示されているが、実際には1993年以降、徐々にシネコンのスクリーンが増えている。

1993年に1734スクリーンであったスクリーン数はシネコンの登場とともに増加に転じ、(2011年に前年の3412スクリーンから3339スクリーンと73スクリーン減、2012年に3290スクリーンと41スクリーン減と前年を若干下回ることがあったが)2016年に至るまで微増を続け、2016年は3472スクリーンとなっている。

2011年、2012年にスクリーン数が減少した背景には、上映のデジタル化があると考えられる。興行におけるフィルムからDCPへの上映素材の転換が進むのが、この間であり、2013年にほぼすべての興行館がデジタルに移行している。巨額の設備投資を要するデジタル化を断念して閉館した映画館は少なくない。

また、2011年3月11日の東日本大震災の影響も少なからずあるだろう。

スクリーン数の推移(1993～2016)

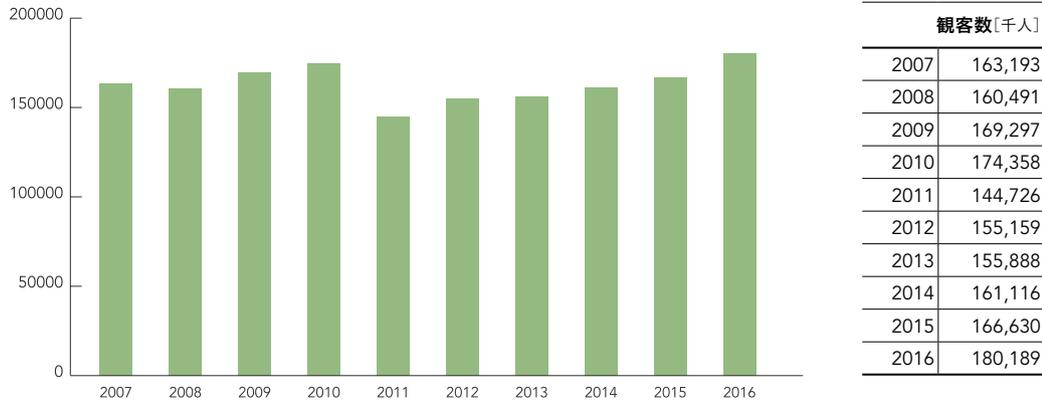


「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

	スクリーン数	内シネコン
1993	1,734	-
1994	1,758	-
1995	1,776	-
1996	1,828	-
1997	1,884	-
1998	1,993	-
1999	2,221	-
2000	2,524	1,123
2001	2,585	1,259
2002	2,635	1,396
2003	2,681	1,533
2004	2,825	1,766
2005	2,926	1,954
2006	3,062	2,230
2007	3,221	2,454
2008	3,359	2,659
2009	3,396	2,723
2010	3,412	2,774
2011	3,339	2,774
2012	3,290	2,765
2013	3,318	2,831
2014	3,364	2,911
2015	3,437	2,996
2016	3,472	3,045

■観客数の推移(2007～2016)

観客数の推移にも東日本大震災の影響をみることができる。2010年に、“2000年代に入って最高の興行収入”2207億円を記録したが、2011年には1812億と大きく数字を落とし、観客動員数も1億7436万人から1億4472万人に減少。2012年以降、観客動員数は回復し、2016年は大ヒット作(『君の名は。』『スター・ウォーズ /フォースの覚醒』等)にも恵まれ、前年を大きく上回る1億8019万人の観客数を記録している。

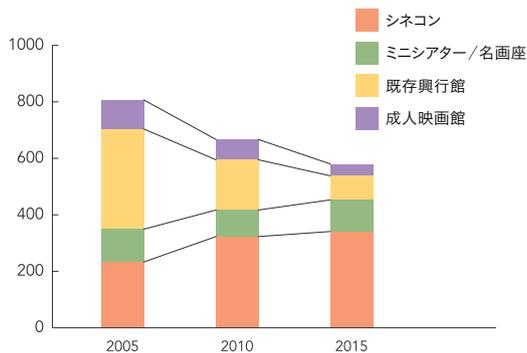


「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

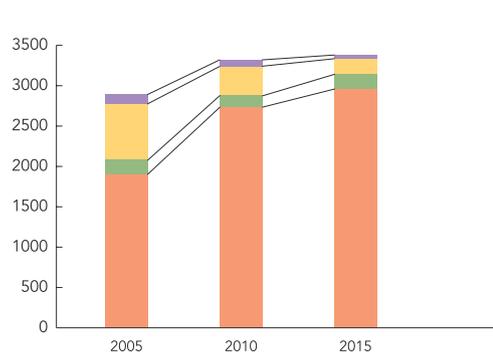
■種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化(2005～2015)

スクリーン数は2005年2964スクリーンから2015年には3467スクリーンと503スクリーン増加している。他方、館数を見ると、2005年の807館から2015年には580館と、227館(約30%)の映画館が閉館している。さらに、映画館の種類別に館数・スクリーン数の推移をみると、シネコンは108館(サイト)の増加、ミニシアター・名画座は4館減、既存興行館は270館減、成人映画館は61館減となっている。多くの既存興行館と成人映画館が、この10年間に閉館していることがわかる。全映画館におけるシネコンの割合は、映画「館数」では約30%から60% (580館中341館)へ、スクリーン数では66%から88% (3467スクリーン中3035スクリーン)へと、そのシェアを大きく拡大している。

種類別映画館(サイト数)の変化



種類別スクリーン数の変化



映画館数	2005	2010	2015	2005→2015
シネコン	234	323	341	107
ミニシアター/名画座	109	94	112	3
既存興行館	356	178	85	-271
成人映画館	107	72	42	-65
合計	806	667	580	-226

スクリーン数	2005	2010	2015	2005→2015
シネコン	1959	2804	3035	1076
ミニシアター/名画座	169	148	187	18
既存興行館	717	370	198	-519
成人映画館	124	83	47	-77
合計	2964	3405	3467	498

* 種類別映画館数・スクリーン数(映画館地図を含む)は、「映画年鑑1994, 2016」(時事映画通信社刊)別冊「映画館名簿」及び「映画上映活動年鑑2003, 2006, 2010」(コミュニティシネマ(支援)センター刊)をもとに作成した。日本映画製作者連盟発表のスクリーン数とは、データの収集方法や対象期間に違いがあるため多少の齟齬がある。

■地方別にみる種別映画館数・スクリーン数の変化(2005～2015)

2005～2015年の約10年間で、映画館数は806館から580館に減少、スクリーン数は2969スクリーンから3467スクリーンに増加している。

これを地方別にみると、いずれの地方も映画館数は減っているが、北海道・東北地方以外では、スクリーン数は増加している。北海道・東北地方では、この10年間で人口が約48万人減少している。これは、この地方の人口の約3%にあたる。東日本大震災後の被災地の人口の減少は現在も続いており、2016年9月には三陸沿岸部で唯一営業を続けてきた「みやこシネマリー」も閉館を余儀なくされている。同様に、人口の減少が目立つのは中国・四国地方で約25万7000人、2.3%の人口減となっている。このふたつの地方では、この10年間で40%にあたる映画館が閉館している。

地方別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化

	2015		2005		2005→2015 増減	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
北海道・東北地方						
シネコン	39	295	33	254	6	41
ミニシアター / 名画座	9	19	9	18	0	1
既存興行館	14	32	51	86	-37	-54
成人映画館	4	4	10	12	-6	-8
北海道・東北地方合計	66	350	103	370	-37	-20
関東地方						
シネコン	116	1070	65	578	51	492
ミニシアター / 名画座	46	76	50	73	-4	3
既存興行館	22	46	110	231	-88	-185
成人映画館	5	7	20	26	-15	-19
関東地方合計	189	1199	245	908	-56	291
中部地方						
シネコン	65	589	48	411	17	178
ミニシアター / 名画座	17	24	13	19	4	5
既存興行館	17	39	60	119	-43	-80
成人映画館	9	9	27	29	-18	-20
中部地方合計	108	661	148	578	-40	83
近畿地方						
シネコン	54	498	37	299	17	199
ミニシアター / 名画座	17	32	18	30	-1	2
既存興行館	15	46	58	128	-43	-82
成人映画館	11	12	26	30	-15	-18
近畿地方合計	97	588	139	487	-42	101
中国・四国地方						
シネコン	29	229	21	153	8	76
ミニシアター / 名画座	10	15	12	17	-2	-2
既存興行館	8	17	37	74	-29	-57
成人映画館	2	3	8	9	-6	-6
中国・四国地方合計	49	264	78	253	-29	11
九州地方・沖縄県						
シネコン	38	354	30	264	8	90
ミニシアター / 名画座	12	20	7	12	5	8
既存興行館	9	18	40	79	-31	-61
成人映画館	11	12	16	18	-5	-6
九州地方・沖縄県合計	70	404	93	373	-23	31
全国						
シネコン	341	3035	234	1959	107	1076
ミニシアター / 名画座	112	187	109	169	3	18
既存興行館	85	198	356	717	-271	-519
成人映画館	42	47	107	124	-65	-77
全国合計	580	3467	806	2969	-226	498

北海道・東北地方の人口

2015	14,364,540		
2005	14,842,055		
増減	-477,515	増加率	-3.3%

関東地方の人口

2015	42,995,031		
2005	42,604,085		
増減	390,946	増加率	0.9%

中部地方の人口

2015	21,460,410		
2005	21,715,822		
増減	-255,412	増加率	-1.2%

近畿地方の人口

2015	22,541,298		
2005	22,757,897		
増減	-216,599	増加率	-1.0%

中国・四国地方の人口

2015	11,283,571		
2005	11,540,710		
増減	-257,139	増加率	-2.3%

九州地方・沖縄県の人口

2015	14,449,895		
2005	14,596,783		
増減	-146,888	増加率	-1.0%

全国の人口

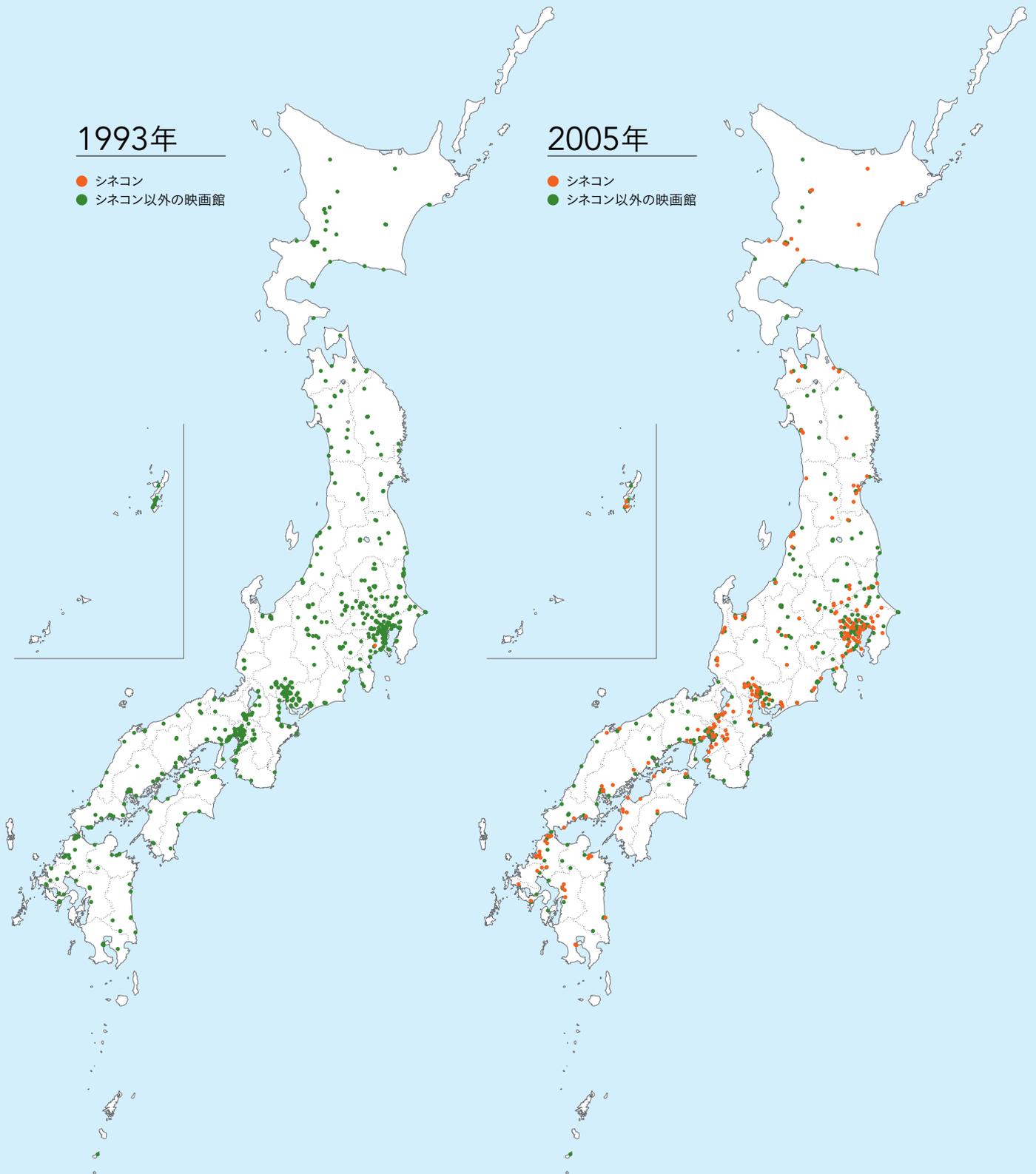
2015	127,094,745		
2005	128,057,352		
増減	-962,607	増加率	-0.8%

* 映画館数・スクリーン数……「映画年鑑2016」(時事映画通信社刊)別冊「映画館名簿」及び「映画上映活動年鑑2006」(コミュニティシネマセンター支援センター刊)をもとに作成。

* 人口……総務省統計局発表「平成22(2005)年国勢調査結果」「平成27(2015)年国勢調査結果」による10月1日現在の人口。

■映画館地図(1993/2005/2010/2015)

1993年、2005年、2010年、2015年の映画館地図を並べてみると、映画館が徐々に既存興行館からシネコンへ移行していることを見て取ることができる。シネコンの増加に伴い、周辺の既存興行館の閉館が進み、映画館は大都市とその周辺に集中し、映画館の空白地域が拡大している。



2010年

- シネコン
- シネコン以外の映画館

2015年

- シネコン
- シネコン以外の映画館

